

## 令和元年度 当別町子ども発達支援センター 自己評価の結果について

### 【評価対象事業】

- ・ 児童発達支援

### 【調査機関】

- ・ 令和元年12月4日～令和2年1月15日

### 【調査対象者】

- ・ 当別町子ども発達支援センター指導員

### 【回答率】

- ・ 配布数：7名 回収数7 回収率100%
- ・ 回答を分析し、次年度の改善に反映してまいります。

### 【評価】

- ・ 業務改善、適切な支援の提供、関係機関や保護者との連携は、概ね適切に行っているという評価です。
- ・ 職員の配置は基準以上ですが、専門性については、資質向上が必要。また今後は言語聴覚士等の専門職が必要と思われます。
- ・ 障がいのない子どもと活動する機会は、特別設定していませんが、毎日の園生活、地域で日常的な交流がみられ、また、あそびのひろば参加などで交流できているという評価です。
- ・ 事業所の行事に地域住民を招待するなどしているかについては、見学は受け入れており、あそびのひろばの親子に避難訓練に招待しましたが、今年度の希望はありませんでした。  
3月に教育委員会子ども未来課子育てサポート係と連携し、センター利用保護者とあそびのひろば利用の保護者と対象とした子育て講座を開催します。

### 【課題】

- ・ 指導員の資質向上や作業療法以外の専門分野についての児童への支援技術向上。

### 【今後に向けて】

- ・ 今後も利用児童、保護者の方一人ひとりに合った、適切な支援の提供や資質向上のために、次年度は、麦の子会の臨床発達心理士による地域支援の受講、北海道立子ども総合医療・療育センターの医師や専門職による専門的な技術支援受講等を8回、北海道通園連絡協議会主催の発達障害についての研修を2回、感染症や虐待、相談支援専門員研修等各1回以上、随時研修会、学習会の案内があれば、参加します。また、対象児童（次年度は8名程度）の受診や指導の際には同行し、専門医や専門指導見学、助言をいただき、資質向上に努めます。